

令和2(2020)年度 諏訪実業高等学校 定時制「学校評価」表(最終評価)

学校教育目標		重点目標(中・長期的目標)	総合評価					
『誠実』『自発』		(1) 働きながら学ぶ・・・職業観の育成、基礎基本の徹底 (2) 仲間を大切に・・・いじめ・暴力の根絶 (3) 自ら考え、行動する・・・自主・自立	定時制の入学者の多くは複雑な家庭事情や発達障がいなどに起因するコミュニケーション不足のため義務教育において長期間の不登校を経験している。本校定時制で働きながら勉強する環境の中で社会とつながり不登校を克服していく生徒が多い。学校生活やアルバイトで得た自信は就職や進学などの進路にも影響し、さらに自分の可能性を求めてチャレンジしていく姿勢につながっている。4年生は専門学校や短大への進学が決定したり、希望する会社への就職内定を得るなど、成果を上げている。一方で、なかなかアルバイトに踏み出せない生徒や、学校が夕方から始まることによる昼夜逆転した生徒など、指導上の課題も残されている。定時制職員一丸となって一人ひとりにきめ細かな対応で生徒の将来を応援していくことで重点目標の達成に向け努力していきたい。					
定時制の特色と少人数教育の特徴を活かし、生徒一人ひとりの個性を尊重しながら、地域社会で自立し貢献できる人材を育成する。		今年度の重点目標	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
		① アルバイトの奨励 (キャリア教育)	就業率は令和3年1月現在43名中19名(44%)。内1名が正社員。4年生は7名中5名が就業。全体としては減少傾向。※2018年度同時期就業率73%、2019年度就業率66%。			○		社会体験を深める観点から来年度もアルバイトを奨励する。学業との両立は難しい面もあると思うが、未就業の生徒にはハローワークに通うなど求職活動を促しながら、他機関との連携も進める。
		② 少人数学習による基礎基本の徹底 進路につながる資格取得 (学習指導)	英語、数学の基礎学力養成に効果をもたらしている。			○		少人数による指導のメリットを生かし、個々の生徒が学力を伸ばすことを楽しめるような教材を工夫する。各種検定試験合格者を増やす。
		③ 生徒の変化を見逃さず、いじめ・暴力を許さない学校 (生活指導)	指導の対象となる問題行動もなく、年間を通じて落ち着いた学校生活を送ることができた。特に上級学年になるほど、平穏な環境が構築された。また、支援が必要な生徒に対して、教員で連携を図りながら対応することができた。			○		問題行動への対応や交通安全など、継続して指導していく。また、教員間で連携を図りながら、生徒が心を開きやすい環境を作り、生徒の行き場がない状況をつくらないようにする。
		④ 生徒が主体的に取り組む校友会活動・学級活動 (校友会)	各種行事をできるだけ生徒の力で運営できるようサポートを行った。その結果、役員生徒の自信を深めることができた。行事での発表等を通して学級内の結束を強めることができた。			○		校友会は生徒自身の組織であり、自分たちで運営していくという意識を役員だけでなく一般会員も持てるよう工夫する。校友会行事の内容をさらに検討し、より多くの生徒が積極的に参加できるようにする。
		⑤ 卒業後の社会的自立と進路希望の実現 全日制進路室との連携 (進路指導)	就職では、生徒は意識を持って取り組む事ができた。進学では、もう少し高いレベルを目指して良いと思われる生徒もいたが、それぞれの希望や事情に応じた進路決定ができた。現段階で進路が決まっていない生徒が若干名いる。			○		進路に対する早めの意識づけが大切である。また、進学では経済的な問題を抱える生徒について、保護者も交えての情報共有や、克服できる方法の研究も課題である。

領域	評価項目		評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育活動	学級経営	1学年	基本的な学習・生活習慣の確立。互いに他者を認め合い個性を尊重する学級作り。	毎日登校・出席し、規則正しい生活がおくれるようになったか。クラスメイトとして互いに尊重しあえたか。	不登校経験者が非常に多いが、入学以来欠席も無く登校している生徒もいる。一方で高等学校でも登校出来ず転退学や休学を選択した生徒も数名出てしまった。			○	相談にのったり保護者を含めて連絡を密に取り、サポートをする。
		2学年	自ら学ぶ姿勢を身に付ける。欠席を少なくする。積極性を身に付ける。	授業を自主的に受け、大切にできたか。欠席を少なくすることができたか。校内行事や友人関係に積極的であったか。	学習への取り組みに自主性・前向きな姿勢が見られるようになってきた。行事や友人関係にも積極性が出てきた。一部、欠席の目立つ生徒がいる。			○	進路に向けて今から欠席数を少なくする姿勢を作るため卒業後の進路を意識させる機会を増やす。
		3学年	学習・校友会活動への積極的な取り組みと、自己の進路希望実現に向けた意識の高揚。	学習・校友会活動などに積極的に取り組めたか。自己の適性・興味に沿った進路を意識した学習活動ができたか。	上級生としての自覚を待たせながら今後の指導を充実させていきたい。また進路に対する取り組みも保護者との連携を密に図っている状況である。			○	就職希望者が多くなる予定であり、今から来年度に向けて準備する必要がある。
		4学年	最上級生としての自覚を持った行動をする。卒業に向け、一人一人の希望進路の実現を図る。	学習・生活・校友会などで自覚を持った行動や活動ができたか。日ごろの指導を通して、生徒と保護者に常に進路を意識させ、全員の生徒の進路実現を達成させることができたか。	校内外において積極的に活動し、希望進路の実現を果たした生徒が大半であるが、少数ながら進路についてまだ決まっていない生徒がいる。			○	進路未決定の生徒・保護者に対して、引き続き対応していく。個人として、またクラスとして、4年間の成長を大いに評価して卒業を迎える。
教育活動	教養	バス遠足	行事を通じて長野県の文化や産業、歴史に触れ、豊かな感性や周囲との協調性を養う。	行事への参加を通じて長野県の産業の実情や文化、歴史の素晴らしさを再認識することができ、また集団の一員としての行動がとれたか。	10月9日全校バス遠足として長野県南信地区で実施予定だったが、コロナ感染防止のため実施せず。				来年度は実施の方向だが、最終的にはコロナ感染状況により判断する。
		生活体験発表	自己の生活体験を振り返って発表したり、それを聞いたりすることで、自分の生き方について考える。	生活体験発表大会に発表者あるいは聴き手として積極的に参加し、各自が自分のことを深く考えることができたか。	発表はどれも素晴らしく、聴く側も良い態度で、自分を見つめることができたと思う。コロナ対策で会場を格技室にしたが、7月にもかかわらず涼しかったのはありがたかった。発表者の欠席がなかったことは特筆に値する。県大会へ1名進むことが出来た。			○	1年は探究の時間で準備をし、直前には全校で特別時間割を設けて作文を書いたことで、作文未完成の生徒がほとんどいなかった。今年発表者の欠席がなかったことを、伝統にしていきたい。職員の係分担の公平化は、更に見直していく。
		視聴覚図書	芸術鑑賞を通じて、豊かな心を育む。授業やその他諸活動を通じ、生徒が図書と親しむ楽しさや重要性についての意識を高める。	芸術鑑賞の企画・運営が適切で、生徒各々が題材について何かを考え、感じる事ができたか。またそれを表現できたか。図書館の利用率が向上したか。また、日常生活の中においても読書をする生徒が増えたか。	10月下旬に芸術鑑賞を実施。視聴覚室での実施であるため、ソーシャルディスタンスに留意した。図書館の利用は2、3年生が積極的である。			○	機材の不具合(タイマー)のため、30分程中断してしまった。前日にでも、実演し確認していく。生徒には鑑賞態度の注意を促していく。
		人権	自己と他者の人権を認識し、考え、学校生活や進路選択などにおいて人権尊重の精神をもとに思考・判断することができる人権感覚を養う。	学校生活や進路選択に際し、望ましい人権感覚のもとに思考・判断することができたか。また、日頃の教育諸活動から生徒が直面する人権的問題に関して、生徒の意識を高めることができたか。	11月中旬に人権教育を実施。感想文に関しては、教室での実施を視聴覚室に変更した。			○	今回は、法務省のビデオギャラリーを利用したが、ドコモやKDDIのスマホ・ケータイ安全教室の活用も視野に入れる必要がある。
校友会	運動委員会	生徒主体で全校運動の企画・運営・進行を行い全校運動に積極的に参加する。	生徒主体で、生徒全員が協力し、よりよい全校運動の企画・実施ができたか。運動に親しみ、個人の技術の向上、他者との協力に励むことができたか。	7月2日木曜日に春季全校運動を計画していたが、新型コロナウイルス対応により中止となった。11月11日水曜日に秋期全校運動を実施。			○	秋期全校運動では欠席者も少なくほぼ計画通りに実施できた。次年度は対戦方法を工夫してより多くの対戦ができるようにしたい	

教育活動	校友会	出版	校友会誌「科」の発刊。校内での出版を行なう。内容の充実を図る。	校友会誌原稿を意欲的に作成できたか。校内での出版に伴い、製本作業等を協力してできたか。	1月より入力指導を予定。2月末の発刊を目指す。	○	充実した内容となるよう、出版委員会の生徒の活動を指導する。
		選挙管理	前後期の校友会役員選挙を公正・公平・確実に実施する。	選挙管理委員が協力して、しっかり選挙を実施することができたか。	前期:立会演説会で、立候補者や推薦人がしっかりと抱負を述べる事が出来、良い演説会になったが、会計監査1名を選出出来ず、候補者の都合もあって再選挙も実施できなかった。選挙管理委員は協力して役割を果たした。後期:選挙管理委員の仕事を担当することが出来た。	○	校友会の役職に立候補することをためらう生徒も多いので、早い段階から各学年の役割分担を考えさせ、生徒の意識付けをしていく。
		定時制祭	生徒が主体の思い出に残る定時制祭を創り上げる。定時制祭を通じて心豊かな人間性や社会性を育成すると共に、充実感・達成感を持てるようにする。	生徒同士、生徒と職員、職員同士での協力・連携がとれたか。全員参加で協力して、思い出に残るものになったか。	初日のボーリングは例年通りの内容。二日目は焼肉を予定していたが、コロナでやむなく校友会による企画イベントに変更した。コロナの影響で日程が10月となり、4年生の進路の時期とかぶったが、会長を中心に企画をしっかりと立てることができた。	○	定時制祭の時期を来年度はもう一度検討しなおすこと。(昨年は6月と10月、今年は6月の全日文化祭に合わせて実施予定だった)アンケートによるとボウリングは好評。また焼肉会を希望する生徒が多い。
		クラブ	クラブ活動を通じて、他者と協力する姿勢を身につける。種目ごとに、目標を設定し取り組む。	種目ごとに、仲間と協力し一丸となって目標に向かうことができたか。本校クラブ活動の規則を守り、活動に取り組むことができたか。	春期南信大会の代替大会が9月に企画され女子生徒1名がエントリーしたが、他校のエントリーがなく開催されず残念であった。クラブへの参加人数が減少しているが、現在も一生懸命活動している生徒もいる。	○	生徒主体の活動を目指し、運動を通して仲間との交流や協力をはかれる環境を目指したい。また、大会への参加も勧めていきたい。
	生徒指導	生活指導	いじめを含む問題行動の把握に努め、問題行動が生じた際には迅速に指導を行う。生徒の登下校の手段を把握し、常に交通安全に留意させる。	悩みや不満を抱えている生徒への対応を、担任と連携してできたか。問題行動の改善に努めることができたか。挨拶や言葉遣いなどに留意し、互いを尊重しあう人間関係を築けるよう指導できたか。	自転車盗難被害(たまたまその日に限って施錠しなかった)と、自転車による車との接触事故が1件あったが、問題行動はなかった。人間関係のトラブルなど、生徒間の関わりに対して、日頃から先生方で協力して生徒達への支援体制を整えることができた。	○	日頃の生徒の様子を大切にし、様々な観点から声かけを実施し、よりよい環境をつくる。いじめアンケートによりいじめ等の実態を把握する。貴重品の管理、自転車交通ルール、保険加入指導を徹底していく。
		保健	個々の状態や場面に応じた指導と対応で、心身の健康を目指す。	生徒の細かなサインや不安定な様子を見逃さなかったか。生徒とのコミュニケーションを大切にしながら指導できたか。自分の健康について興味関心を持たせる指導・取り組みができたか。職員間での情報共有や連携、統一性がとれたか。	感染症による休校の影響で、生徒の心身の状態が不安定になることが予測された。そのため、生徒個々の心身に寄り添った対応、指導を心がけた。	○	生徒とのコミュニケーションを大切にし、よりよい関係作りの継続をする。常に生徒へ目を向け、耳を傾ける。職員間での情報共有を密にし連携しながら、生徒への指導・支援を継続する。
	進路指導	進路指導	各学年の取り組みにあわせて進路活動が円滑に行われるよう、進路指導を計画的に行う。	各学年に応じた取り組みができたか。全体に向けた講演会などが実施できたか。	例年6月実施の進路講話は、コロナのため中止。1～3年生の進路に対する意識付けの機会を一つ失った。4年生は、進路決定に関する意識は高かった。	○	低学年のうちから、進路を意識する機会を日常の様々な場面で持ち、3年生くらいからは具体的な行動が起こせるように指導を工夫する。
		キャリア教育	アルバイトの奨励。仕事や就職試験などに興味を持たせる。	アルバイトの就業率が上がったか。未就業の生徒がハローワークに通うなどして、働くことに対する意欲をみせてくれたか。各授業や科の葉などで進路に関する準備が始められたか。	アルバイトを始める事のできない生徒への指導。	○	未就業者には個別の状況把握ときめ細かな対応が必要で、ハローワーク・すわーくらいふなどの外部機関とも連携していきたい。
	特別支援	校内支援体制の充実。多くの生徒がよりよい学校生活を送れるように、支援や必要に応じた個別支援の実施。各機関やスクールカウンセラーの活用。	校内の支援体制の充実と、生徒1人1人の実態の把握ができたか。個別の支援や対応ができたか。	生徒一人一人の把握と、寄り添った対応を継続していく。カウンセラー等との連携を引き続き行う。	○	情報共有、生徒の把握を継続し、統一性を持ちながら個々の支援、指導に繋げる。必要に応じて外部機関とも連携していく。	
	学校運営	地域との連携	定時制教育振興会	定時制教育振興会を充実をめざして、総会の実施とふだんの振興会活動の活性化を図る。	総会を契機にして、会員同士の親交と生徒の支援を担う振興会に対する意識の向上を図ることができたか。	コロナの関係で今年は予定通りの計画が進められていない。	○
PTA同窓会			保護者と学校との架け橋の一翼を担うべく、環境作りに努める。	PTA総会への参加数の増加を図れたか。保護者懇談週間への参加をサポートできたか。	コロナの関係により予定通りの計画が進められていない。	○	今年は特殊なケースであり、今後の計画を考慮する必要がある。
教務		総務	定時制の教育活動がスムーズに行われるための環境作り。全日制との協同。	先を見通した計画が提案できたか。HPや学校通信による情報提供がしっかりできたか。全日制との情報交換を密に行えたか。	生徒による授業アンケートは本年度も5段階評価とし、科の葉も含めた全授業で実施。結果はホームページにも掲載。	○	アンケート結果を活かしながら、教育効果があげられるよう、努力していきたい。さらに全日制との連携を深めたい。
		防災	災害時、安全に避難できる体制づくりを目指し、防災に対する意識を高める。	春は地震・火災を想定した避難訓練において適切な行動ができたか。秋は防災教育を通じて災害発生時における適切な行動を学べたか。	コロナ禍により休校だったため春の避難訓練は実施できなかったが、秋は被災後の火災について学習し防災意識を高めることができた。		避難訓練も繰り返し体験することが大事であるので、次年度は確実に実施したい。
		清掃美化	清掃を通じて、校内美化の意識を高める。	一斉清掃に協力して取り組むことができたか。教室や廊下等がきれいになっているか。	大掃除の時間が短縮傾向にある。	○	月に一度しか無い大掃除なので、時間いっぱい取り組み、自ら気づいて行動できるよう声かけをしていく。
		学習指導	総合的な学習の時間の特性をいかしながら、生徒の学習への取り組みを強化させる。1・2年生については「総合的な探求の時間」について内容を確認させ活動させる。	少人数講座である利点を生かし、指導内容を工夫した充実した授業になったか。「探究の時間」について充実した内容になったか。	金融教育を取り入れるなど(1年生)「探究の時間」に意欲的に取り組むことができた。	○	少人数講座による「探究の時間」へのより充実した内容を工夫する。
給食		毎日パンを食べてもらおう。牛乳を飲む生徒を増やす。給食を通して、食べ物の大切さや『食』について関心を持たせる。	パンの余りを減らせたか。生徒の食生活の改善・向上の指導ができたか。給食の在り方や充実について検討できたか。	パンの食べ残しが多く、持ち帰りをしない生徒もいる。	○	給食の在り方、内容の検討を引き続き行なう。	